



# えどまえ うみ まな わ 江戸前の海 学びの環づくり 瓦版 第24号

東京海洋大学 江戸前ESD協議会 〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学品川キャンパス

## 東京海洋大学 福島海プロジェクト 2022 海鷹祭「福島海と漁業の今」報告

去る11月4日～6日、東京海洋大学品川キャンパスの学園祭「海鷹祭」が開催されました。COVID19感染防止のために2020年は中止、21年はオンデマンド開催でしたので、3年ぶりの対面での開催です。感染防止対策として、午前・午後の二部に分けての、先着予約制がとられました。東京海洋大学江戸前ESD協議会（以下、江戸前ESD）も、福島県漁業関係機関とともに出席、11月5日（土）午後と6日（日）午前に「東京海洋大学 福島海プロジェクト 2022」を実施しました。今号で報告します。

今年海鷹祭の出展については、5月末から福島県水産事務所の方々に河野博・江戸前ESD共同代表、河住大雅さん（東京海洋大学大学院・海洋管理政策学専攻）をまじえて、オンラインで相談を始めました。しかし7月には新規感染者数が急増、対面での実施が危ぶまれるような状況がしばらく続き、具体的なプログラムづくりなどの準備に取り掛かることができたのは、新規感染が落ち着いた9月末になってからでした。

まずプログラムですが、割り当てられた会場が水や生き物を持ち込めない小会議室であったことから、2019年に実践して大好評だった、福島で獲られる多種多様な魚介類にさわってもらう「タッチプール」や「お魚さばき方教室」は断念。福島県の漁業復興に向けた取り組みを伝えるポスターや動画の解説、そして相馬双葉漁業協同組合の石橋正裕・相馬原釜青壮年部長と渡部祐次郎・常勤理事による、来場者にスライドや動画を見せつつ質問に答える「漁師さんたちと話をしよう」の3つの企画に絞りました。

11月3日の海鷹祭準備日には、鷹崎和義さん（福島県水産事務所）に描いていただいたレイアウトをもとに、授業「海洋ESD実習」（院・海洋管理政策学専攻；担当：川辺）を履修している大学院生たちと河住さんと会場を設営、椅子やディスプレイを配置しました。

本番の11月5日（土）朝には、まず会場入口の受付を設けて入場前に手指を消毒してもらう、使用した椅子等はそのつど消毒する、というように感染防止対策を講じました。ポスター5枚（4-5頁）を壁面に掲示し、

東京海洋大学 福島海プロジェクト2022

「福とら」

### 福島海と漁業の今

- 福島県の漁業や水産研究について、ポスターや動画でご紹介
- 漁業者のお話をまじえて、福島海と漁業の今をご紹介します

11月5日（土） 6日（日）  
13時～17時 9時～12時

東京海洋大学 楽水会館2F小会議室

アンケート回答者に缶詰をプレゼント（数に限りあり）

### 漁師さんたちと話をしよう。

5日（土）：14:00～、15:30～ 6日（日）：9:30～、11:00～ 開催

お問い合わせ  
「福島海@海洋大2022」実行委員会  
川辺みどり TEL03-5463-0574

【 主催 】  
東京海洋大学江戸前ESD協議会  
福島県漁業協同組合連合会／相馬双葉漁業協同組合  
福島県水産事務所／福島県海洋研究センター／福島県水産資源研究所

「東京海洋大学 福島海プロジェクト 2022」のちらし。  
作成：根本芳春さん（福島海区漁業調整委員会事務局）

スライドや動画をコンピュータで映す準備をして、スタッフ全員で打合せをした後、いよいよ開場です。

次の2-3頁では、海洋ESD実習を履修している院生4名の「ふりかえりレポート」をもって、「福島海@海洋大プロジェクト 2022」の内容をお伝えします。



## 福島漁業について知る

「福島の海と漁業の今」というテーマで、相馬双葉漁協、福島県水産事務所、福島県水産海洋研究センターの方々と展示を行いました。展示の内容は、東日本大震災からの復興と福島県の漁業の今、福島県で水揚げされる魚、福島で獲れるトラフグのブランド化についてです。

福島県は東日本大震災で発生した津波により甚大な被害を受け、相馬市尾浜にあった漁協の建物は壊滅したそうです。原発事故もあり、漁業に大きなダメージを負った相馬双葉漁協では職員の数を半分に減らし、2012年からは安全性が確認された魚種について試験操業を始めました。そして原発事故による風評被害に対し、水揚げされた全ての魚種の放射線を毎日計測し、国の定めた基準よりも厳しい基準を設定して、魚の安全性を確保してきました。

一方、震災の影響や海水温の上昇などによって、以前は獲れた魚種が獲れなくなったり、獲れていなかった魚種が獲れるようになるなどの海の変化が起きている。このような変化に対し、獲れなくなった魚種については禁漁として資源量を回復させ、獲れるようになった魚種については、ブランド化を進めることで新しい収入源にしようとしています。その時々漁獲や海の状況に合わせて漁の方法などを変えることで、柔軟に漁業を続ける漁師さんや漁協の方々の姿勢が印象的でした。

今回の企画のように、漁師さんや漁協の職員の方が直接説明することは、風評被害を減らすことにもつながると考えます。いまだに魚を買うときに原発事故の影響を心配している人に、福島の魚は安全なんだということを、漁師さんたちは説得力をもって伝えることができたと思います。また、来場者のなかには、「楽しかった」「面白かった」と私たち学生に直接伝えてくれる方もいらっしゃり、普段あまり学んだり考えたりする機会のない、日々の食に対する意識を変えることに少しは貢献できたのではないかと思います。

今回のプログラムは、もっと広い教室が会場だったら、実物の漁具や魚、特産品なども置いて、よりよい展示にすることができたのではないかと考えます。実際に魚を見ることができれば、もっと聴きたいことができるし、印象も異なると考えます。また、子連れのお客さんも多かったのですが、子どもにとっては、魚そのものや福島で獲れる魚に興味を持ってもらうきっかけになるのではないかと考えます。

とても貴重な機会を頂き、福島に行った際には市場や漁港に寄ってみたいとなりました。ありがとうございました。

(院・海洋管理政策学専攻・奥谷 陽太郎)



福島県水産職員による、福島県漁業の復興の取り組みの解説。

## 海鷹祭を福島の方々と過ごして

企画「漁師さんたちと話をしよう」では、「鱈の旬は秋」「20円/kgで流通するヒラメがいる」など、今まで聞いたことのないような漁業の豆知識に溢れた石橋正裕・相馬原釜青壮年部長のお話で、来場者が釘付けになって、次々と質問が飛んでいたのが印象的でした。また、福島県のコウナゴが近年めっきり取れなくなったことに関して、私も修士論文研究でコウナゴを対象に研究しているため、その変動要因に大いに興味がわきました。

深く考えさせられたのは、「福島県で漁獲されたトラフグが豊洲市場を通して下関で販売されると、買い取り値が3千円から1万5千円にもなる」ことで、日本の水産業界の厳しさに直面したように思いました。そうした中でも、今は福島県のトラフグを「福とら」としてブランディングしていることを知り、その業界の厳しさを打開しようと努力されていることに感銘を受けました。

渡部祐次郎・相双漁協常勤理事の、震災当時の消防団や下校中の小学生や常勤理事のお父さんが被災された話をお聞きして、とても胸が痛くなりました。それでもなお、地元である、磯部地区の水産資源について熱意をもって話されていたのが、とても印象に残りました。

震災から11年たった今なお、福島の漁協の皆様が、国の定める基準の半分である50Bq/kgという自主基準を設けて放射能の検査を続けていることに、自分たちの漁獲する福島の水産物への自信を感じました。

海鷹祭2日間で約200人ものの方々にお越しいただいて、イベントに携わったものとして非常にうれしかったとともに、一般の方々の福島に対する思いや興味の強さがコロナ禍を挟んでも変わらなかったことに安心しました。

(院・海洋管理政策学専攻・菅 駿之介)



石橋正裕・相馬原釜青壮年部長は漁業歴24年のベテラン漁師。



「福島の海と漁業の今」を語る、渡部祐次郎・相双漁協理事。



## 活発な質疑応答に驚く

開場後、私たち学生は、受付やチラシ配布、アンケートの回収など、企画を補助する業務を行うこととした。チラシ配布や受付をおこなっていて驚いたのは、小さい子供でも漁師さんの仕事や漁業に興味があるということである。彼らが親御さんの腕を引っ張ってこの企画に足を運んでくれた時はとても感動した。将来は是非、海洋大で漁業のことや魚のことを学んで欲しいと思った。

合間に会場の様子をのぞいてみたところ、ポスター解説や講演会において、想像以上に活発な質疑応答が行われており、非常に驚いた。見ていて、一般のお客様が最も関心を持っていたのは、魚は獲れてすぐより、寝かせた方が、旨味が増して美味しくなるというお話である。この大学にいと感覚が麻痺してくるのだが、一般の方はこの事実を知らない場合が多いのだ。改めて、私たちの大学がいかに専門的で、マニアックな人が多い大学であるかを実感できた。

福島県の漁業では、未だに放射性物質の問題が課題として挙げられ、それによる風評被害が存在しているという。しかし今回の企画で、放射性物質の含有量についてもしっかりと検査が実施されていることや、現在トラフグの漁獲量が増加していることにより、ブランド品である「福とら」を売り出していることなどを、福島県の漁業者の方々が少しでも知ってもらおうと、熱心に一般のお客様に伝えていた。

私たち学生も、より多くの人々に福島県の漁業について知ってもらいたいと思っていたため、様々な工夫を凝らして宣伝した。その結果、当初予想していた人数を大きく上回るお客様に足を運んでいただき、用意していたカツオの缶詰も全て無くなった。これをきっかけとして、福島県の漁業の現状やその素晴らしさ、そして漁師さんたちの凄さを様々な人に知っていただけると嬉しい。これからも福島県の水産物を美味しく食べていきたいし、様々な方々に食べていただきたいと思った。

(院・海洋管理政策学専攻・辻 康平)

## 変化に対応する努力に感銘

11月5日と6日海鷹祭のイベントにスタッフとして参加させていただきました。3年ぶりに対面開催する学園祭だったので、最初は少し緊張しましたが、どれくらいのお客様が来てくださるか心配でした。

しかし福島県の漁師さんたちの講演が始まると、学生スタッフの宣伝のおかげか、たくさんの方々が来てくれました。震災後、福島県には多くの変化があり、獲れる魚種も変わったという話に来場者の方々も深く興味を持ちました。子供連れの家族、学生、お年寄りなど、幅広い年齢層の方々がいっぱいました。

一方、会場の壁に貼った「福島県の漁業復興に向けた取り組み」のポスター前では、来場者が福島県水産職員の方々と福島県の漁業について話し合っていました。みなさんが福島県の漁業の復興について興味を持ってくれていたのが、とても嬉しかったです。福島県の漁業関係者の声が、来場者のみなさんに上手く伝えられているのを見て、私ももっと発信したいと思い、構内で頑張ってアピールしました。

今回、漁業者と理事の方々の話を聞いて、震災後の約10年間に彼らが経験したいろいろなことと数えきれない努力について、考えるようになりました。安全性を確保するために獲れた魚をひとつひとつ検査し、生息環境が変わった漁場に対応していく努力には、私を含め話を聴いたみなさんが感銘を受けました。

アンケートのお返しとして用意した200個の缶詰が終了前に全部なくなるほどの、たくさんの方々の来場者を迎え、おかげで成功裏にプロジェクトは終わりました。私自身も福島県の漁業関係者のために福島県の水産物を積極的に購入するのはもちろん、現況を乗り越えられる発信活動を今後も続けていきたいと思いました。

この二日間は、とてもやりがいがある、楽しい時間でした。皆様本当にありがとうございました。

(院・海洋管理政策学専攻・キム ドンヨン)



2日間の来場者は216名、ポスター「福島県漁業復興の取り組み」やスライドや動画を用いた「漁師さんたちと話をしよう」の解説に努めた相馬双葉漁協、福島県水産職員の方々と、たいへん活発にお話しいただきました。



# 福島県水産事務所／福島県水産海洋研究センターが展示したポスター

## 福島県の漁業復興に向けた取組

### ① 漁業施設被害と復旧状況

#### 漁業施設被害

漁船、漁港などに甚大な被害 **(被害額計82,363百万円)**

水産庁「平成23年度水産白書」



津波により被災した漁船や市場

#### 漁業施設の復旧

漁業施設の復旧は着実に進んでいます。



新しくなった小名浜魚市場  
高度衛生管理に対応し、高品質の魚を出荷



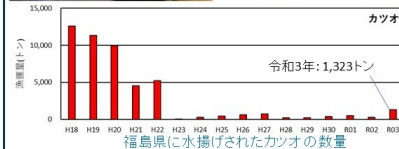
新しくなった相馬原釜地方卸売市場、製水施設、漁船等  
震災前の規模に近づきつつあります

## 福島県の漁業復興に向けた取組

### ② 漁業の現状

#### 沖合漁業

日本沿岸から比較的離れた漁場で操業するまき網漁や棒受け網漁は、原発事故による対象種(カツオ、サバ類、サンマ等)への影響が小さいと考えられたことから、震災後も通常の操業が行われてきましたが、福島県への水揚げは、震災前の水準に回復していません。



震災前は、福島県に水揚げされる魚の中では、カツオが数量、金額とも1位でしたが、震災後は非常に少ない状況が続いています。

#### 沿岸漁業

原子力発電所の事故の影響によって、沿岸漁業は操業を自粛し、小規模な操業・流通を行う試験操業に取り組んできました。

震災から丸十年を迎えた令和3年3月をもって、試験操業は終了し、福島県の沿岸漁業の復興に向けた取組は新たな段階に入っています。

県内の沿岸漁業者は本格的な操業に向けたロードマップを作成し、操業形態の見直し等の課題解決を図りながら、水揚げの拡大に取り組んでいます。



## 福島県の漁業復興に向けた取組

### ③ 安全安心のための取組

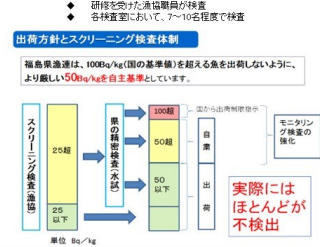
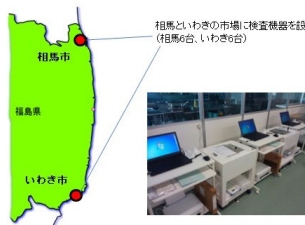
#### 福島県における海産魚介類の検査体制

福島県では、県によるモニタリング検査において安全性を確認しています。  
毎週100検体程度、これまでに約7万3千検体の海産魚介類を検査しました(R4.9)。  
令和3年度は検査した検体のうち99.8%が不検出でした。  
現在、出荷制限が指示されている魚種はクロソイ1種のみです



#### 各市場において自主検査を実施 安心のために

- 水揚げ日毎に、各地区で実施
- 25Bq/kgを超えた場合は県水産海洋研究センター・県水産資源研究所にて精密検査



#### 水産物のPR活動

漁協や県では、消費者の皆さんに福島県産水産物を安心して食べて頂くために、安全性や美味しさを知ってもらう取組を行っています。



## 福島県の漁業復興に向けた取組

### ④ 本格的な操業再開に向けて

#### 試験操業・販売

県が行ったモニタリング検査の結果、安全が確認された魚種に限定し、小規模な操業と販売を試験的に実施してきました。

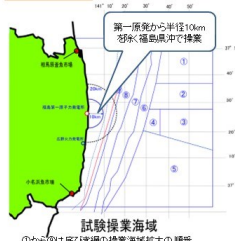
- 出荷先での評価を調査
- 流通・販売を通じて福島県産水産物の安全性をアピール



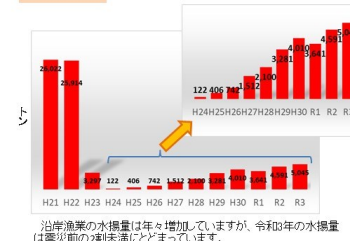
#### 対象種

試験操業開始当初: 3種 → 令和4年9月30日時点: クロソイを除く全魚種(約230種)

#### 操業海域



#### 水揚量



対象種、操業海域を拡大しながら水揚げを増大

試験操業は令和3年3月をもって終了し新たな段階へ(終了の理由)

- 漁港・漁船・市場等が、一定程度復旧
- 震災前の漁法が、ほぼ操業可能
- 福島県沖については、震災前と同じ漁場で操業可能(一部を除く)
- 放射性物質がほぼ検出されなくなり、海産魚介類の安全が確保
- 出荷先がほぼ回復し、市場で一定の評価

試験操業の目的は達成

今後の課題と対策: 水産業の生産・流通を震災前の水準に!!

- 水揚げのさらなる拡大 (令和3年の沿岸漁業水揚量は震災前の約3割→水産資源を管理して水揚げを拡大する「ふし型漁業」の実現)
- 流通(販路の確保・拡大、風評対策→ MEI認証取得、高付加価値化によるブランド力強化、大型量販店での常設販売機設置やフェア開催による販路の確保)
- 漁場利用 (中谷底びき網等他県操業の再開)
- 後継者対策



# 東京海洋大学 江戸前ESD協議会が展示したポスター

## 福島県の水産関係者/機関と東京海洋大学江戸前ESD協議会の協働

東京海洋大学江戸前ESD協議会〔共同代表：石丸隆・河野博；事務局：川辺みどり〕



東京海洋大学江戸前ESD協議会は、2006年11月に環境省「国連 ESDのための10年」事業に採択されたことをきっかけに始まった、本学教員の任意団体です（共同代表：石丸隆・河野博；事務局：川辺みどり）。東京湾の持続的利用のしくみづくりを考えるプログラムを、その時々本学学生と「船の科学館」や「大森海苔のふるさと館」等の協力を得て、湾岸地域の方々と共に行ってきました。

2011年3月福島第一原発事故後の7月の海鷹丸緊急航海をきっかけに、福島県水産関係者/機関と共同で「いわきの海と魚を語ろう～いわきサイエンスカフェ」（2011年11月～14年3月；毎月）ほか福島県漁業の復興に向けて共考する参加型ワークショップ等を開催しています。

### いわきの海と魚を語ろう～いわきサイエンスカフェ (2011年11月～2014年3月)

「いわきサイエンス・カフェは、いわき市の基幹的な産業である水産業、特に操業の自衛を余儀なくされている沿岸漁業などが、現下の厳しい状況から一歩踏み出していくため、海や漁業に関わる様々な立場の方々が、情報を共有し、話し合い、これからの本市の海と魚と放射能について考えていく場として、東京海洋大学の協力を得て開催するものです。」  
(いわきサイエンスカフェ始まりの挨拶から)



### いままで共同開催した参加型ワークショップなど (2012年11月～2022年11月)



No.	時期	会場	海の状況の解説(県水試) → その日の話題提供 → テーブルで対話 → 全体共有
1	2011年11月	福島県水産会館	水産業の現状について(野崎 哲・福島県漁業協同組合連合会・会長) 放射性物質分布のモニタリングと海洋生物への移行について(石丸 隆・東京海洋大学)
2	2011年12月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(水野 拓治・福島県水産試験場・水産資源部長)
3	2012年1月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(水野 拓治・福島県水産試験場・水産資源部長)
4	2012年2月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(水野 拓治・福島県水産試験場・水産資源部長)
5	2012年3月	アクアマリンふくしまマリンシアター(第6回めりかりサミット・第5回いわきサイエンスカフェ共同企画)	環境中の放射線・放射能の測定と軽減(佐藤健二・環境内魚類の放射性物質測定結果について(根本芳喜・福島県水試・漁場環境部長)) 魚類への放射性物質の影響について(森田貴己・河川の放射性物質測定結果について(長尾誠也・水産庁増殖推進部)) いわきサイエンスカフェの活動について(川辺みどり・東京海洋大学)
6	2012年4月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(根本芳喜・福島県水試・主任研究員)
7	2012年5月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(根本芳喜・福島県水試・主任研究員)
8	2012年6月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(藤田恒夫・福島県水試・漁場環境部長)
9	2012年7月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(根本芳喜・福島県水試・主任研究員)
10	2012年8月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(藤田恒夫・福島県水試・漁場環境部長)
11	2012年9月	いわき市総合保健センター「水産物の放射性物質調査に関する講演会」	いわき市総合保健センター「水産物の放射性物質調査に関する講演会」
12	2012年10月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(藤田恒夫・福島県水試・漁場環境部長)
13	2012年12月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(水野 拓治・福島県水試・水産資源部長)
14	2013年1月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(根本芳喜・福島県水試・主任研究員)
15	2013年3月	アクアマリンふくしまマリンシアター(第7回めりかりサミット・第6回いわきサイエンスカフェ共同企画)	ふくしまの海の放射線量の推移(根本芳喜・福島県水試・主任研究員) 福島県の試験操業・風評被害について(中研二食品の汚染状況とその健康被害をどう考えるか(鈴木哲二・福島県漁業協同組合連合会)) 水産物の風評被害防止に向けた取り組みについて(緑川直・いわき市、見せる課)
16	2013年3月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(神山亨一・福島県水試・漁場環境部長)
17	2013年4月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(神山亨一・福島県水試・漁場環境部長)
18	2013年5月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(神山亨一・福島県水試・漁場環境部長)
19	2013年6月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(藤田恒夫・福島県水試・漁場環境部長)
20	2013年7月	いわき市総合保健センター「水産物の放射性物質調査に関する講演会」	いわき市総合保健センター「水産物の放射性物質調査に関する講演会」
21	2013年8月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(藤田恒夫・福島県水試・漁場環境部長)
22	2013年9月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(神山亨一・福島県水試・漁場環境部長)
23	2013年11月	海鷹丸と福島水試が測ったふくしまの海～いわき+相馬サイエンスカフェ	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(藤田恒夫・福島県水試・漁場環境部長)
24	2013年11月	相馬双葉漁協庶務支所会議室(福島県南相馬市)	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(藤田恒夫・福島県水試・漁場環境部長)
25	2013年12月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(水野 拓治・福島県水産試験場・水産資源部長)
26	2014年1月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(神山亨一・福島県水試・漁場環境部長)
27	2014年2月	福島県水産会館	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(藤田恒夫・福島県水試・漁場環境部長)
28	2014年3月	アクアマリンふくしまマリンシアター(第8回めりかりサミット・第28回いわきサイエンスカフェ共同企画)	水産物における放射性物質のモニタリング経過について(藤田恒夫・福島県水試・漁場環境部長)

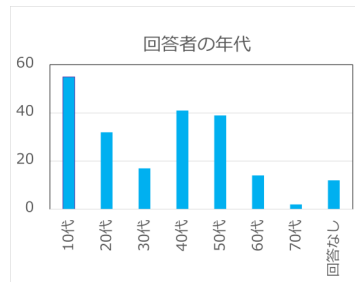
No.	開催日程	会場	タイトル
0	2011年7月1～8日	東京海洋大学練習船 海鷹丸	UM-11-03 海鷹丸緊急航海(福島沖海洋生態系調査)
1	2012年1月28日	海洋大 附属図書館 ラウンジ	江戸前ESDふくしまワークショップ「いわき市下神白のウヅ・アブリ漁業」
2	2012年11月3日	海洋大 附属図書館 ラウンジ	いわきサイエンスカフェ@海洋大ライブラリ「いわき市四倉のホッキ漁業」(いわきサイエンスカフェ再掲)
3	2012年11月18日	海洋大 白鷹館2階多目的室	江戸前ESDふくしまワークショップ「相馬原産の沿岸漁業」
4	2013年11月3日	海洋大 白鷹館2階多目的室	海洋大と福島水試が測った、ふくしまの海～いわき+相馬サイエンスカフェ(いわきサイエンスカフェ再掲)
5	2014年11月1～2日	海洋大 水産会館大会議室(海鷹丸)	東京海洋大学 福島の海プロジェクト2014「福島漁業 再開への歩み」
6	2015年11月1日	海洋大 水産会館大会議室(海鷹丸)	東京海洋大学 福島の海プロジェクト2015「相馬の海を語る・売る・食べる」
7	2016年11月6日	海洋大 8号館2階教室(海鷹丸)	東京海洋大学 福島の海プロジェクト2016「福島と海と漁業を知ろう 常盤ものが開けてきた!」
8	2017年11月4・5日	海洋大 2号館100A教室(海鷹丸)	東京海洋大学 福島の海プロジェクト2017「福島漁業さんと魚に会おう」
9	2018年2月24日	相馬双葉漁協庶務支所会議室(福島県南相馬市)	南相馬復興大学 ワークショップ「鹿島の海と魚を語ろう」
10	2018年11月3・4日	海洋大 2号館100A教室(海鷹丸)	東京海洋大学 福島の海プロジェクト2018「福島と海と漁業を知ろう 常盤ものが開けてきた!」
11	2018年11月24日	相馬双葉漁協庶務支所会議室(福島県南相馬市)	南相馬復興大学 ワークショップ「鹿島の海と魚を語ろう Part II」
12	2019年9月25日	相馬双葉漁協庶務支所会議室(福島県南相馬市)	相馬双葉漁協国際ワークショップ「相馬の海と魚を語ろう」
13	2019年11月2・3日	海洋大 2号館100A教室(海鷹丸)	東京海洋大学 福島の海プロジェクト2019「福島漁業さんと魚に会おう」
14	2021年10月29日～11月29日	オンライン開催(海鷹丸)	東京海洋大学 福島の海プロジェクト2020
15	2022年11月5～6日	海洋大 水産会館2階小会議室(海鷹丸)	東京海洋大学 福島の海プロジェクト2019「福島漁業さんと魚に会おう」

江戸前の海 学びの環づくり 瓦版の福島県漁業特集号



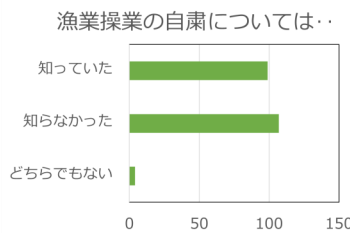
## 来場者へのアンケートの結果から

「東京海洋大学 福島  
の海プロジェクト 2022」は2  
日間で216名の来場者を迎  
え、212名の方々にアンケ  
ートに回答いただきました。こ  
こでは、その結果をご紹介します。なお、回答者の年齢  
層は10代が過半数を占め、  
次いで40代、50代、20代の順でした。



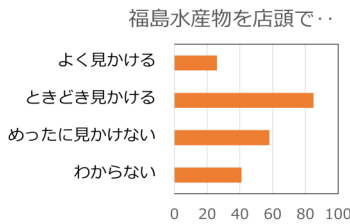
### 問 震災後の福島県漁業の操業自粛について

福島県では東日本大震  
災直後から漁業操業を自  
粛していました。この事実  
を「知っていた」と「知らな  
かった」の回答は、ほぼ同  
数でした。



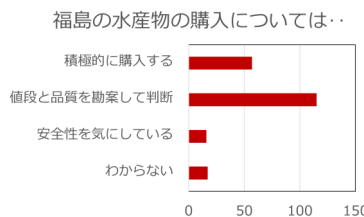
### 問 福島県産水産物を店舗で見かけますか

回答者のほとんどが首都  
圏にお住まいの方ですが、  
「よく見かける」が12%、「と  
きどきみかける」が41%で約  
半数が見かけるのに対し、  
「めったに見えない」が28%、  
「わからない」も20%でした。



### 問 福島県産水産物の購入についての意識は

「応援の意味を込めて積  
極的に購入する」が28%、  
「他の産地と同様に値段と  
品質を勘案して判断する」  
が56%で、計85%の回答は  
購入に前向きです。一方、  
「安全性を気にしている」  
8%、「わからない」8%もま  
たいらっしゃいました。



### 問 福島県の漁業や水産物、今回の展示について

福島県の漁業や水産物や本プロジェクトについて  
は、自由記述で次のようなご意見やご要望をいただきま  
した。(注：明らかな誤字は修正しました。)

- ➡ 災害後10年以上経ちますが、まだまだ影響が濃く残っていると存じます。がんばってください。応援しています。
- ➡ 頑張ってください！

- ➡ 福島のコウナゴや青のりが好きですので、また流通してほしいです。
- ➡ 原子力。海へ流す件。
- ➡ 発信力が重要だと分かった。
- ➡ トラフグ食べたい。コウナゴは泥、砂に生息するから、津波や地震の影響で底の生息環境が変わって採れなくなってしまったのではないかな。
- ➡ ポスター、動画は非常に見やすかったです。お話も、難しい言葉などは使わずに話していただけたので、分かりやすかったです。自分も復興の力に少しでもなれるよう、現状をしっかりと広めたいと思いました。
- ➡ 福島だけがスクリーニング検査を行っていることは知らなかった。処理水放出による風評被害に負けないでほしいです！
- ➡ 息子の通っている大学が、福島県とつながりがあってうれしいです。復興が前進するように祈っています。
- ➡ 津波で水路がなかったところに水路ができてしまった写真がすごかったです。
- ➡ 実際に漁師の方から漁についてのお話が聴けて良かったです。豆知識も面白く、タメになりました。
- ➡ 福とら、是非ブランド化して福島を盛り上げて欲しいと思いました。
- ➡ 大変な状況と向き合う10年だったと思います。がんばってください。
- ➡ とてもべんきょうになった。
- ➡ 福島の漁業は原発のために大変な思いをされてきました。これから良い方向にどんどん進んでいただくことを願います。いっぱい発信していただきたいです。
- ➡ 動画でセリの様子もみれて、とても興味深かったです。良い機会でした。ありがとうございました。
- ➡ 汚染水を海に流すことを懸念しています。がんばってもらいたい。
- ➡ お米などのことはよく知っていたが、魚のことなど知れてよかった。がんばってください。
- ➡ 通常より厳しい基準で検査され、安全な魚が届けられていることがわかった、色んな人の認識が変わってほしい。
- ➡ 福島の漁業が知れてよかったです。
- ➡ 福島の漁業の現況が分かって勉強になりました。今も検査をしていて、大変そうですが、安心して購入します！
- ➡ 大好きなお魚のお話をきけてうれしかったです。
- ➡ 福島県、応援してます。頑張ってください♡
- ➡ 軽い気持ちで立ち寄ったものの、学祭のプログラムの中でも興味深かった。魚が刺身が食べたくなりました。かなり良い展示なのでもっとブースのPRをした方がいいと思う。
- ➡ 震災によって大きな被害を受けられたであろう福島の漁業関係者の方々が、今まで検査を続けていたり、様々な工夫をされていることを知りました。福島の魚を見た時は、積極的に買いたいと思います。

- ➡ お話を聞いているとだんだんとトラフグ食べてみたくなりました。こんどかぞくで行きたいです。
- ➡ ニュースなどで色々厳しい状況だという情報は知っていました。ただ福島の魚をスーパーなどで見ると、おいしそうで買わせていただいています。今日初めてトラフグ漁のことを聞き家族で相馬に行って食べたいと思います！いつも新鮮な魚をありがとうございます。
- ➡ 相馬でフグがとれる事を知らなかった為、とても興味深くお話を聞きました。福島県、応援しています。がんばって下さい。
- ➡ トラフグは西日本のイメージだったのですが、福島で大量にあがる事は知らなかったです。
- ➡ とても興味深いお話でした。ありがとうございました。
- ➡ 頑張ってください。今日学園祭初イベントです。卒業生です。
- ➡ 福島 ガンバレ 応援してる！
- ➡ 応援しています！！
- ➡ 話はききやすかったです。こういうアピールは大事だと思います。
- ➡ 福島でトラフグがとれることを知らなかった。積極的に購入したいと思う。福島ですと応援しています。
- ➡ 子供でもよめるように、フリガナがあると良かった。
- ➡ 学校との連携はよく知ることができて良い機会になると思った。ワークショップにも参加してみたい。
- ➡ フグのはがすごいことをしれてよかったです。
- ➡ 漁師さんのお話が聞けてたのしかったです。
- ➡ 聴講の機会があれば、もっとお願いしたいです。
- ➡ 福島県が活発的に動いていくことを祈っています。頑張ってください。少しでも応援したいと考えています。
- ➡ 放射性物質の検査についてはほとんど知らなくて、これほど詳しく調べられていると知りおどろいた。私は関東出身で、両親も関東出身なので、東北のナマリが新鮮でよかったです。ESD活動との関連ポスターはもう少し入口に近い所にあると見やすいと思いました。
- ➡ マスコミなどによる風評被害がまだに続いているようです。いいかげんにきちんとした報道をお願いしたいと思います。福島の魚はおいしいです。おいしい魚がたくさん食べられますように。
- ➡ 漁師さんの生の声が聞けて興味深かったです。
- ➡ 福島県の沿岸漁業の量が増加していることに驚いた。今十年以上がたって、福島県の今の現状を知れる良い経験になった。グラフを活用しとても視覚的にわかりやすくとてもよかったです。ありがとうございました。
- ➡ 大震災から10年間今だにご苦労されている現状を知る機会を得て、大変勉強になりました。このようなプログラムを開催を続けていただき、福島県の漁業の復興を願っています。
- ➡ 漢字がところどころムズかしかった。
- ➡ ふぐとかをとるわなを見てみたいです。
- ➡ 福ふぐから揚げ 食べたいです！
- ➡ かげながら応援したいと思います。大変かと思います

が がんばってください！

- ➡ 福島のトラフグは食べた事がないので興味持てた。漁師さんの裏話が面白かった♪
- ➡ 安全性に関するデータをベースに 福島の海の安全性と福島の漁業の安全性を示すと更に伝わるかと感じました。
- ➡ かつお すきです。
- ➡ 現状がわかり勉強になりました。福島には行った事がないので、パンフなどを見て足を運びたいと思います。
- ➡ 漁師さんのお話を聞くことができ、大変貴重な機会でした。福島産の水産物を積極的に購入していきたいです。
- ➡ おせん水問題をしっかりとりくんで下さい。
- ➡ 特にこれといった改善点はございませんでした。福島の現状と状態が知れて、復興の速さと、人間の活力を知れて面白かったです。
- ➡ 震災前の漁獲量に戻ることをお祈りします。積極的に福島産を購入します！！ファイト
- ➡ とても興味深いお話で面白かったです。今の課題や当時の様子などが分かりました。
- ➡ 今後の活躍にも期待しています。
- ➡ 自分の知らない事を学ぶ良い機会になりました。ありがとうございました！
- ➡ 今まで知らなかった事がたくさんあり、興味深かったです。分かりやすいお話をありがとうございました。
- ➡ 今後も福島県での取り組みを共有して頂きたい。
- ➡ 安全性にどの産地よりも気をつけていらっしゃることを広くアピールしてらして、良かったです。応援しています。
- ➡ 興味深かったです。
- ➡ おいしい魚を食べたいです。
- ➡ 美味しい魚を食べたいです。
- ➡ 魚 大好きです！ 応援しています。
- ➡ 漁師さんと近いキョリ感で話ができとても面白かった。

ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。  
集計はキムドンヨンさんをお願いしました。



回答のお礼にお渡ししたカツオの缶詰  
(福島県漁業協同組合連合会提供)。



## スタッフのひとこと感想

海鷹祭は、震災後しばらくは、福島の漁業・水産物について理解していただく場、今は、福島の漁業・水産物を応援いただけることを実感できる場となっています。福島の漁業復活に向けて勇気をいただいておりますこと、感謝申し上げます。

(福島県水産海洋研究センター 水野 拓治)

福島県外の方に、福島県の漁業や水産物の安全・安心に係る取組についてお話できる貴重な機会を頂き、ありがとうございました。多くの方に関心を持って聞いて頂き、とても励みになりました。

(福島県水産海洋研究センター 渡辺 透)

海鷹祭には、これまで多くの漁業者・漁協職員が出席してきました。しかし、今回の海鷹祭では、当初出席を想定していた漁業者の都合が付きませんでした。コロナの影響も考慮して出席は県職員だけにしよう、と考えた矢先、相馬双葉漁協の石橋青壮年部長・渡部常勤理事に対応いただけることになりました。今回の会場の熱気を見て、漁業者・漁協職員の出席の重要性を強く感じました。石橋部長から「来年度の海鷹祭にも出席したい」と聞きました。私としては、引き続き、海洋大と漁業者・漁協職員の橋渡し等を行って、福島県の漁業や常磐もののPRをしたいと考えています。

(福島県水産事務所 鷹崎 和義)

海鷹祭では、福島県外の方に福島の漁業や水産物について紹介させていただきました。御来場の方々には、「取組を初めて知った。」「福島県産水産物が安全だと改めてわかった。」と仰っていただきましたので、福島の漁業の「今」についてお伝えする貴重な機会になったと考えています。

(福島県水産事務所 渡邊 亮太)

海鷹祭に来場してくれた方々は魚や漁業に対する関心がとりわけ高く、質疑応答も活発に行うことができました。そのため、海鷹祭は福島県の漁業を知ってもらう場としては勿論、人前で話すことが苦手な漁業者に自信を付けてもらう場としても良いのではないかと思います。機会がありましたら、またよろしく願いいたします。

(福島県水産事務所 森下 大悟)



学生スタッフの面々：(右上写真から時計回りに)大場晴日、北野涼介、奥谷陽太郎、河住大雅、辻康平、キムドンヨン、菅駿之介(敬称略)。



3年ぶりの対面での活動では、学生スタッフにおおいに助けられました。準備のための海鷹祭実行委員会とのやりとりは河住さんに一任、開催当日は院生5名に海洋政策文化学科1年の大場晴日さん、北野涼介さんも加わって、交替で海鷹祭が開かれている構内で積極的に宣伝し、盛り上げてくれました。おかげで会場は立ち見が出るほどの盛況でした。いつも江戸前ESDの活動を支えてくださる小堀信幸さん(船の科学館)、師田彰子さん(全国内水面漁業協同組合連合会)には、今回も運営をお手伝いいただきました。本活動には科研16H03005 を用いました。(川辺 みどり)

「江戸前の海 学びの環づくり」(東京海洋大学 江戸前ESD協議会)は、2006年11月に環境省「国連 持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」事業に採択されたことから始まった、東京海洋大学内の任意団体です。以来、東京湾など沿岸海域の持続的利用のしくみづくりを考えるために、本学のさまざまな海洋分野の教員が、学部生/大学院生や「船の科学館」(品川区)、「大森海苔のふるさと館」(大田区)、港区芝浦港南支所などの協力を得て、湾岸地域の方々とともにいろいろなプログラムを実施しています。

東日本大震災以降は、福島県浜通り(沿岸部)の復興をめざす福島県漁業関係者の方々とともに、今号で紹介したような企画も実施しています(5頁参照)。

東京海洋大学江戸前ESD協議会の詳細については、下のホームページをご覧ください。

<https://www2.kaiyodai.ac.jp/~hirokun/edomae/index-esd.htm>

共同代表：石丸 隆・河野 博/事務局：川辺 みどり

「東京海洋大学 福島の海プロジェクト 2022」は、東京海洋大学江戸前ESD協議会と次の団体との共催です。

福島県漁業協同組合連合会 <http://www.fsgyoren.jf-net.ne.jp/>

相馬双葉漁業協同組合 <https://www.soso-gyokyo.jp/>

福島県水産事務所 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36490a/>

福島県水産海洋研究センター <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37380b/>

福島県水産資源研究所 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37395c/>